

富士川町観光振興計画検討委員会

第2回検討委員会

次 第

日時：令和7年12月23日(火)午後7時～

会場：富士川町役場 2階会議室

- 1 開 会
- 2 委員長挨拶
- 3 議題
 - (1) アンケート結果について
 - (2) 第3次富士川町観光振興計画(案)について
 - (3) その他
- 4 その他
- 5 閉 会

.....

メ モ

富士川町観光振興計画検討委員会役員名簿

役 職	所 属	氏 名
委員長	町商工会 会長	中 澤 良 夫
副委員長	日出づる里活性化組合 組合長	小 池 太 一
	平林活性化組合 組合長	中 込 廣 男
	(株)富士川 代表取締役	藤 巻 睦 久
	(株)ふじかわまちづくり公社 代表取締役	相 澤 輝 雄
	(公社)やまなし観光推進機構 事務局長	長 野 まゆみ
	富士川地域観光振興協議会 事務局長	清 野 忍
	町区長会 会長	樋 口 正 彦
	公募	依 田 昂
	公募	深 澤 步 未

事務局	町役場産業振興課長	望 月 奈緒美
〃	町役場産業振興課 観光振興担当リーダー	大 森 充
〃	町役場産業振興課 観光振興担当	大 野 萌



富士川町観光振興計画(案)

富士川町

目次

I. 計画の概要	2
II. 国・県の観光施策	4
III. 富士川町の観光動向	6
1. 富士川町の概要	6
2. 観光客の動向	7
3. 富士川町の交通立地状況と観光資源	9
4. アンケート調査結果	12
IV. 地域別の観光動向	19
1. 地域別の特性と観光地づくりの課題	19
2. 地域別の観光地づくりの方向	27
V. 魅力ある観光地づくりに向けて	33
1. 魅力ある観光地づくりの課題	33
2. 魅力ある観光地づくりの方向	35
VI. 数値目標	36
VII. 計画の推進にあたって	39

I. 計画の概要

1. はじめに

「第3次富士川町観光振興計画」は、観光振興に向けた施策を総合的かつ計画的に進めるため、「第3次富士川町総合計画」を上位計画として位置づけ、観光部門における具体的な方針を示すものです。

本計画では、これまでに積み上げた観光資源の開発を基盤に、更なる魅力向上を目指します。特に近年の観光トレンドや、地域資源の有効活用に向けた新たなアプローチを加えた振興策が求められます。

富士川町は、豊かな自然環境と歴史的背景を有し、富士川舟運や地域の文化を象徴する観光資源が豊富です。

また、中部横断自動車道は令和3年に山梨～静岡間が全線開通し、これにより、静岡県や長野県方面からのアクセスが大幅に向上しました。今後さらに観光客を増加させるためには、この接続を活かした観光振興を一層進めていく必要があります。

さらに、町単独だけではなく広域連携も重要な要素となります。富士川町の観光振興において、周辺地域との協力や共同の観光施策の推進が、地域全体の活性化に寄与するため、広域的な連携強化が求められます。

令和2年から始まったいわゆる「コロナ禍」により一時的に観光業が停滞しましたが、現在は回復しつつあります。回復した観光業を更に拡大し、観光資源を最大限に活用した施策を進めることが今後の課題です。特に、短期滞在型観光や立ち寄り型観光のニーズに応じた施設整備やサービスの向上、インバウンド観光(海外からの観光客)の対応も重要な取組となります。

地域資源を活用した観光振興を進め、観光業を通じて地域の活性化を促し、富士川町がさらに発展できるよう本計画を策定しました。

2. 計画の趣旨

本計画の趣旨は、地域資源を最大限に活用し、観光業の持続的な発展と地域活性化を目指すことです。富士川町の豊かな自然、歴史、文化といった資源を観光に結びつけ、地域住民と観光客が共に楽しめる魅力的な観光地づくりを進めます。

近年、観光客は徐々に増加していますが、今後は更なる増加を図り、地域経済の活性化と町のブランド価値向上を目指します。特に、中部横断自動車道の開通によって静岡県や長野方面とのアクセスが大幅に向上したことを活かし、広域的な観光振興を進めるとともに、短期滞在型・立ち寄り型観光のニーズに応じた施設整備やサービスの充実を図ります。

また、インバウンド観光の促進を視野に入れ、富士川町が観光の玄関口として更に発展するため、地域資源を活用した観光振興を進め、地域住民や観光事業者との協力を深め、持続可能な観光の実現を目指します。

3. 計画の位置づけ

本計画は、「第3次富士川町総合計画」を上位計画とし、国や山梨県の観光施策を踏まえた施策として位置づけられています。本計画は、町全体の発展を目的とした大枠の施策の中で観光振興に特化し、観光資源を最大限に活用するための方針を示すものです。

また、本計画を通じて、町内外の関係団体や事業者との相互理解を深め、観光振興に向けた連携・協力体制を強化することを目的としています。特に、観光資源の効果的な活用と、地域振興との相乗効果を生み出すための協働を進め、地域全体で観光振興に取り組む体制づくりを推進します。

4. 計画の期間

計画期間は、「第3次富士川町総合計画(令和7年度～令和16年度)」に則り、令和17年度までの10年間とします。

また、本計画は、社会・経済環境の変化や広域的な観光振興計画の進展、その他富士川町を取り巻く観光施策に大きな変化が生じた場合には、適宜見直しを行い、柔軟に対応していきます。

Ⅱ. 国・県の観光施策

1. 国の観光施策

国では観光立国推進基本計画(第4次)において、観光立国の持続可能な形での復活に向け、観光の質的向上を象徴する「持続可能な観光」「消費額拡大」「地方誘客促進」の3つをキーワードに、持続可能な観光地域づくり、インバウンド回復、国内交流拡大の3つの戦略に取り組むこととし、次の方針に基づいて、施策を推進しています。

(1) 持続可能な観光地域づくり戦略

観光振興が地域社会に好循環を生むよう、観光施設の改修や観光DXの推進を支援し、地域経済の収益力を向上させます。観光地域づくり法人(DMO)を中心に、環境保護と地域住民への配慮を両立させた持続可能な観光地域づくりを進めます。

(2) インバウンド回復戦略

訪日外国人旅行者の回復を促進し、特別な体験や地域の文化・アクティビティを強化。高付加価値な観光コンテンツや地方誘客の促進、地方直行便の増便などを進めます。日本の魅力を世界にアピールし、訪日消費額の増加を目指します。

(3) 国内交流拡大戦略

国内旅行市場の拡大を目指し、地域の魅力を引き出し、旅行需要を平準化します。テレワークやワーケーション、ユニバーサルツーリズムなど新たな旅行ニーズに対応し、国内交流を活性化させます。

2. 県の観光施策

山梨県ではやまなし観光推進計画において、山梨のポテンシャルを100%生かし、観光の質の向上と観光産業の経営基盤の強化を図ることで、観光産業の稼ぐ力を高め、持続可能な観光地・山梨を創出することを観光ビジョンとして、次の戦略に基づき、施策を推進しています。

(1) 受入環境の整備

国内外の旅行者の満足度向上を図るため、滞在価値の創出につながる地域全体での上質な受入環境の整備に取り組みます。

また、地域全体で温かく旅行者を迎えるため、おもてなしに主体的に取り組む人材の育成に取り組みます。

(2) やまなしツーリズムの推進

観光ニーズの多様化や旅行形態の変化に対応するため、環境に最大限配慮しつつ、本県の魅力的な自然景観や美食などの観光資源を活用し、サステナブル・ツーリズムの推進に取り組みます。

また、他産業との連携によるブランド力の強化や戦略的なプロモーションに取り組みます。

(3) 観光地経営の高度化

観光産業全体で薄利多売からの脱却を図るため、地域内が連携した収益性の高いビジネスモデル(エリアマネジメント)の構築等に取り組みます。

また、旅行者の多様なニーズを観光消費につなげるため、マーケティング調査及び分析に取り組みます。

(4) 人材の確保・定着・育成

宿泊業従業員の賃金向上や職場環境の改善など安定的な労働環境の整備に取り組むとともに、生産性の向上や高付加価値化を担う経営者や従業員の人材育成に取り組みます。

また、観光産業の経営資源を次世代に引き継ぐため、宿泊事業者等の事業承継に取り組みます。

Ⅲ. 富士川町の観光動向

1. 富士川町の概要

富士川町は、甲府盆地の南西部に位置し、東京都から約 100km 圏、甲府市から約 15km の距離にあります。北は南アルプス市、東は市川三郷町、西は早川町、南は身延町に隣接し、地理的に広域交通の要所に位置しています。

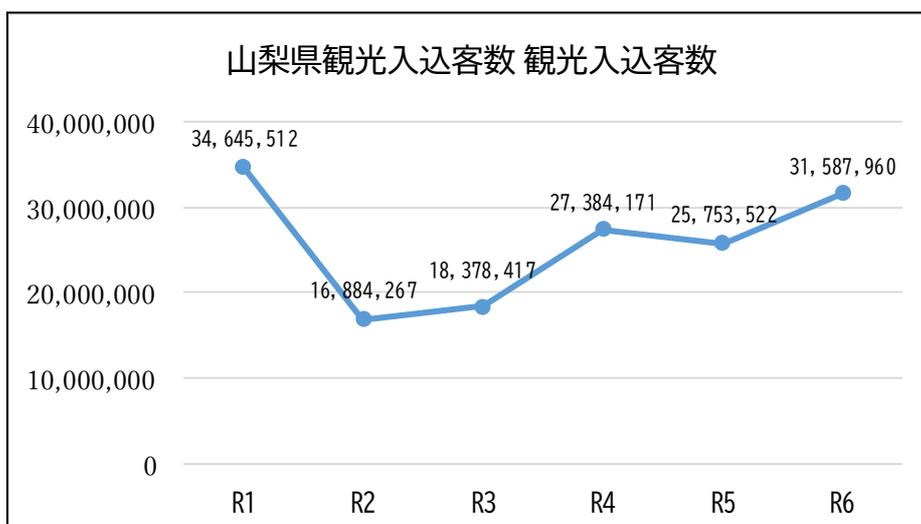
町の西側一帯には、南アルプスの前衛峰である楡形山や源氏山が連なり、標高 2000m 級の巨摩山地が広がります。この地域は豊かな自然に恵まれており、森林や渓谷、滝などが点在しています。西部の山地を源とする利根川、戸川、大柳川などの中小河川が町内を横断し、東側を流れる富士川に合流しています。山麓一帯には広大な扇状地が広がり、市街地や農業集落地が形成されています。

富士川町は、江戸時代から富士川舟運の重要な拠点として栄えましたが、時代の変遷とともに物資輸送や交通手段は鉄道や自動車に変わりました。現在、町内を南北に縦断する中部横断自動車道や国道 52 号、県道 42 号線が甲府市や静岡県方面とを結び、東側には JR 身延線が通っています。これらの交通網により、富士川町は甲府盆地の南の玄関口として重要な役割を担っています。

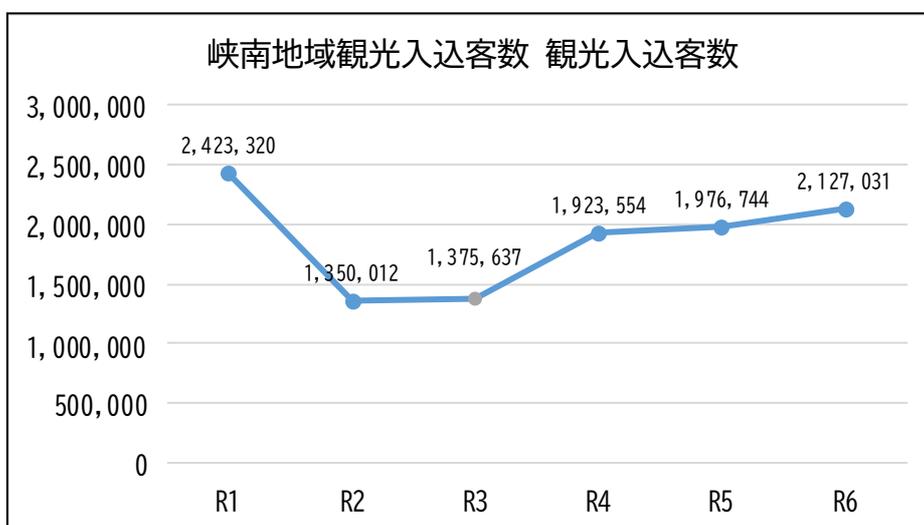
中部横断自動車道は、令和 3 年に山梨～静岡間が全線開通し、これにより、静岡県や長野県方面とのアクセスが大幅に改善され、地域間の交流が一層活発になりました。アクセスが容易になったことで、観光地への移動時間が短縮され、観光の利便性がさらに向上しています。今後も、観光客や物流の増加が期待され、地域経済の発展に寄与することが見込まれています。

2. 観光客の動向

山梨県のコロナ禍前後を含めた過去6年間の観光入込客数の総計は、令和元年は34,645千人であったのに対し令和2年・3年は20,000千人以下と大幅に落ち込みました。令和4年は27,384千人まで回復し、令和5年は3月からマスク着用が個人の判断となり人の往来も活発になったところですが少し落ち込み25,753千人。直近の令和6年度にはインバウンド需要もあってか31,587千人となり、コロナ禍前の客数に追いつきつつあります。

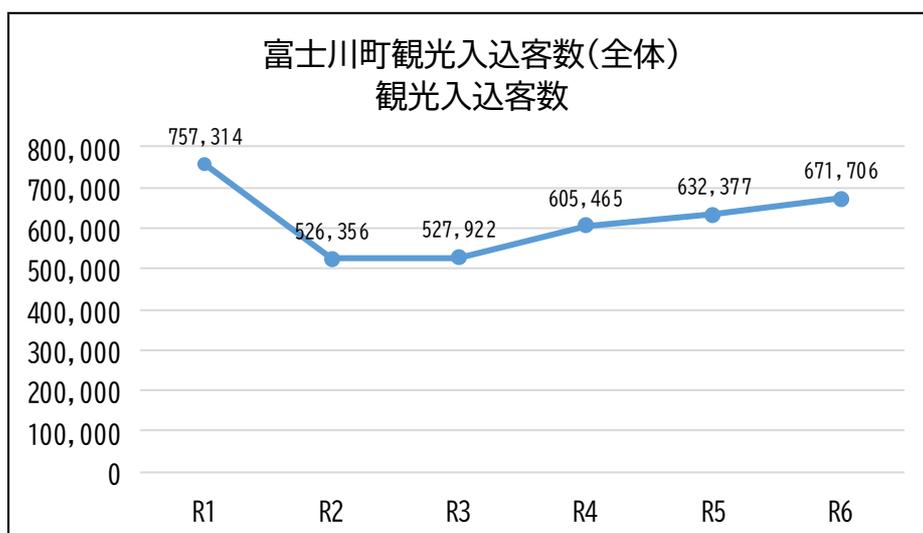


富士川町を含めた峡南地域の過去6年間の観光入込客数は、令和元年の2,423千人から、令和2年は1,350千人と落ち込み、令和3年も1,375千人と県のグラフと似たような動きをしています。令和4年からは少しずつ客数が回復しており、令和6年度には2,127千人まで増加しました。令和3年に中部横断自動車道が全線開通した影響も考えられます。

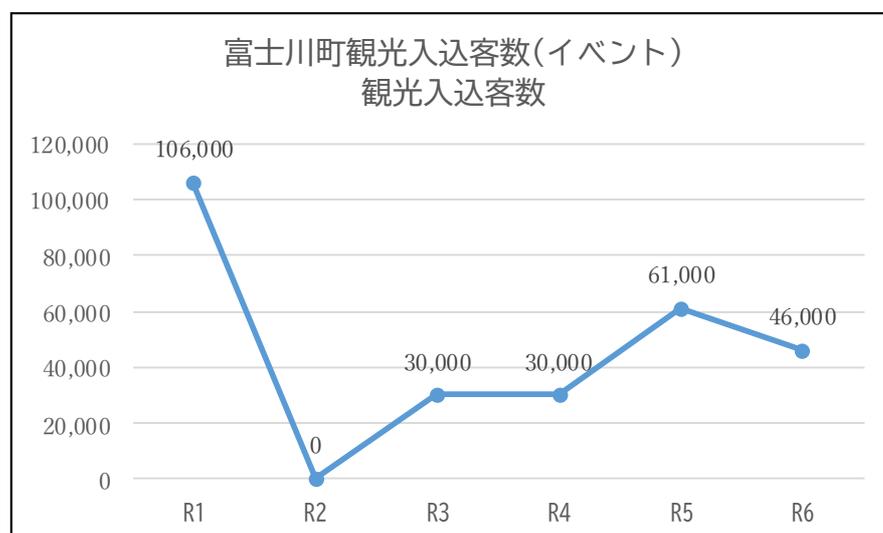


富士川町の観光入込客数はイベントを含め主要観光施設で算出しています。観光施設は町内温泉施設や道の駅などからの報告値、イベントは大法師さくら祭りや富士川まつりの観客の概数で積算しています。

富士川町の客数は令和元年に790千人で、令和2年・3年と客数が落ち込みました。令和4年に624千人で令和5年685千人、令和6年707千人と少しずつですが客数が戻ってきています。令和2年以降の客数の落ち込みは、次に記載するイベントの客数が大きく影響しています。



富士川町の主要イベントは、大法師さくらまつり・ふじかわ夏まつり (R52)・甲州富士川まつり・あじさい祭り・ゆずの里まつりの5つのイベントで概算の客数を算出しています。しかし令和2年以降ふじかわ夏祭りの中止や、その他イベントも中止や縮小を余儀なくされ、天候不順などが重なった年もあり、以前の賑わいを取り戻せたとはいえない状況です。



3. 富士川町の交通立地状況と観光施設

交通立地状況

富士川町は、甲府盆地の南西部に位置し、広域的な交通網に恵まれた立地にあります。町は交通の要所として重要な役割を担っており、観光や物流においてもアクセスが非常に良い地域です。これらの交通網を活用して、観光業の振興や地域経済の活性化を図り、今後も更なる交通インフラの整備が期待されています。

(1) 中部横断自動車道

富士川町を南北に貫く重要な高速道路で、令和3年に山梨～静岡間が全線開通しました。この開通により、静岡県や長野方面とのアクセスが大幅に向上し、観光や物流の利便性が格段に改善されました。特に、富士川町の増穂ICは主要なインターチェンジとなり、広域交通の要として機能しています。

(2) 国道52号線

町を南北に貫く主要な幹線道路で、甲府市や静岡県方面とのアクセスを提供しています。この道路は、山梨県内の主要都市とつながり、観光や住民の移動にも重要な役割を果たしています。

(3) 県道42号線

富士川町内を東西に横断する道路で、町の中心部と周辺地域をつなぐ重要な役割を果たしています。この道路は、地元住民の通勤や観光施設へのアクセスにも利用されています。

(4) JR身延線

富士川町の東部には、JR身延線が走っており、町内の駅から甲府市や静岡方面への鉄道アクセスが提供されています。身延線は観光地へのアクセスや日常的な移動手段として利用されています。

(5) その他の交通インフラ

町内には、路線バスやデマンドバスが整備されており、主に日常的な移動手段として利用されています。

主な観光施設

No	施設名	所在地
1	まほらの湯	富士川町長澤 1757-2
2	民俗資料館(太鼓堂)	富士川町最勝寺 320
3	森林総合研究所(森の教室)	富士川町最勝寺 2290-1
4	増穂ふるさと自然塾	富士川町平林 3337-11
5	平林交流の里 みさき耕舎	富士川町平林 2335-1
6	櫛形山	富士川町平林地内
7	儀丹の滝	富士川町平林地内
8	妙蓮の滝	富士川町平林地内
9	平林の棚田	富士川町平林地内
10	氷室神社	富士川町平林 3334
11	小室山妙法寺	富士川町小室 3063
12	八雲池公園	富士川町小室地内
13	ダイヤモンド富士	富士川町高下地内
14	大法師公園	富士川町鰻沢 2175
15	交流センター塩の華	富士川町鰻沢 4852-1

16	甲州鰍沢温泉かじかの湯	富士川町烏屋 137-1
17	総合交流ターミナルつくたべかん	富士川町十谷 2294-7
18	源氏山	富士川町十谷地内
19	大柳川溪谷	富士川町十谷地内
20	道の駅富士川	富士川町青柳町 1655-3
21	菴米公民館	富士川町菴米 1237
22	あおやぎ宿「追分館」	富士川町青柳町 222
23	富士川いきいきスポーツ公園	富士川町鰍沢地内
24	富士川親水公園	富士川町鰍沢地内
25	平林たはたの宿	富士川町平林 1123-1

4. アンケート調査結果

1 概要

町 HP 及び町内観光施設にアンケートを設置し、インターネット及び紙により調査を実施。

富士川町公式 LINE でも周知し回答を促した。

実施期間：令和 7 年 10 月 23 日(金)～11 月 17 日(金)

総回答数：町内 117 件 町外 7 件

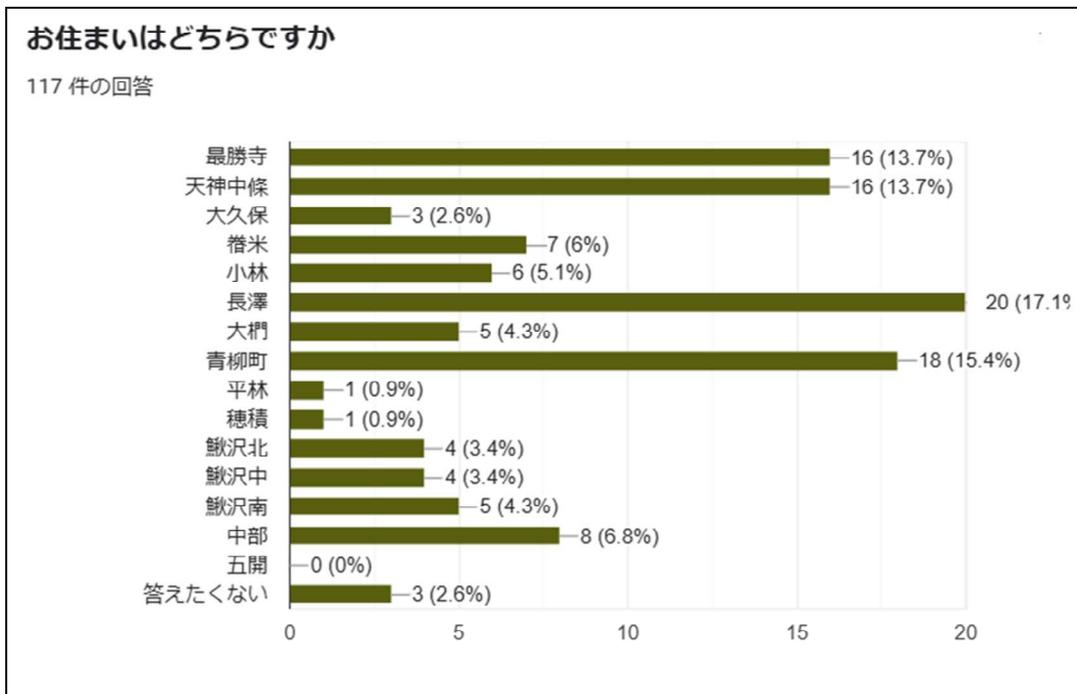
※回答グラフはアンケート回答及び集計に使用した google フォームにより出力しております。

自由記載回答や回答者本人の入力により「…」で表示されている部分や地名の誤りもそのまま表示されています。

町内在住者向けアンケート調査結果(回答数 117 件)

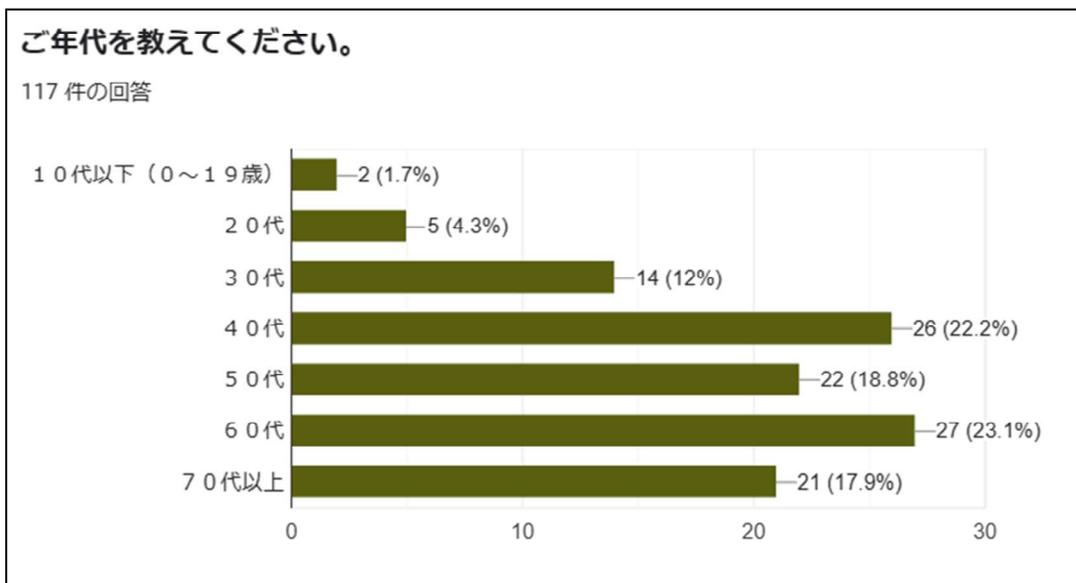
(1) 回答者の住所

回答者の住所は合併前の旧増穂町・旧鰻沢町で比較すると、旧増穂町での回答が 79%と多くなっています。



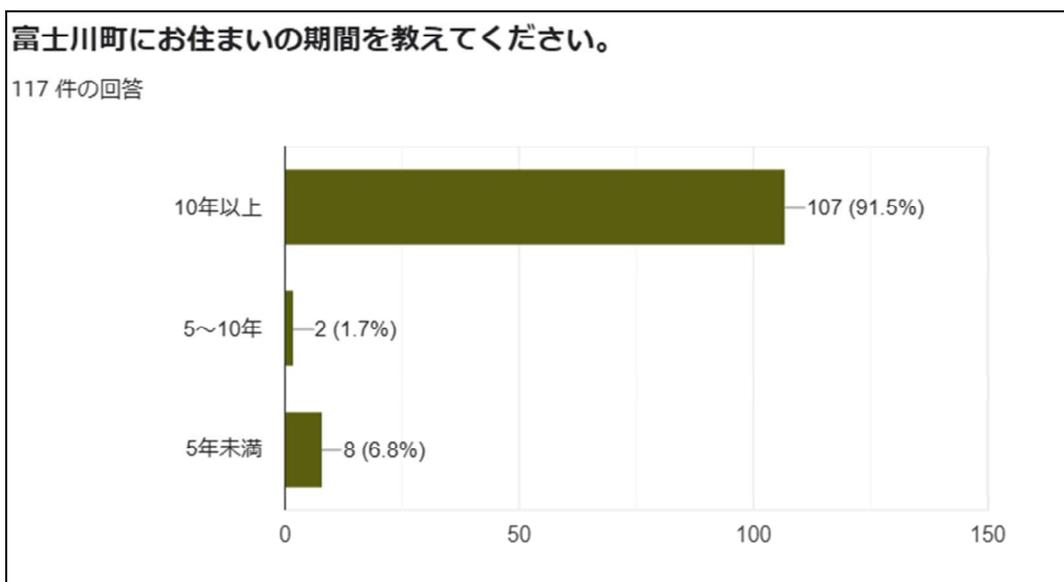
(2) 回答者の年代

回答者のうち 60 代以上の割合が 41%でしたが、若い世代からの回答も多く受け付けられました。



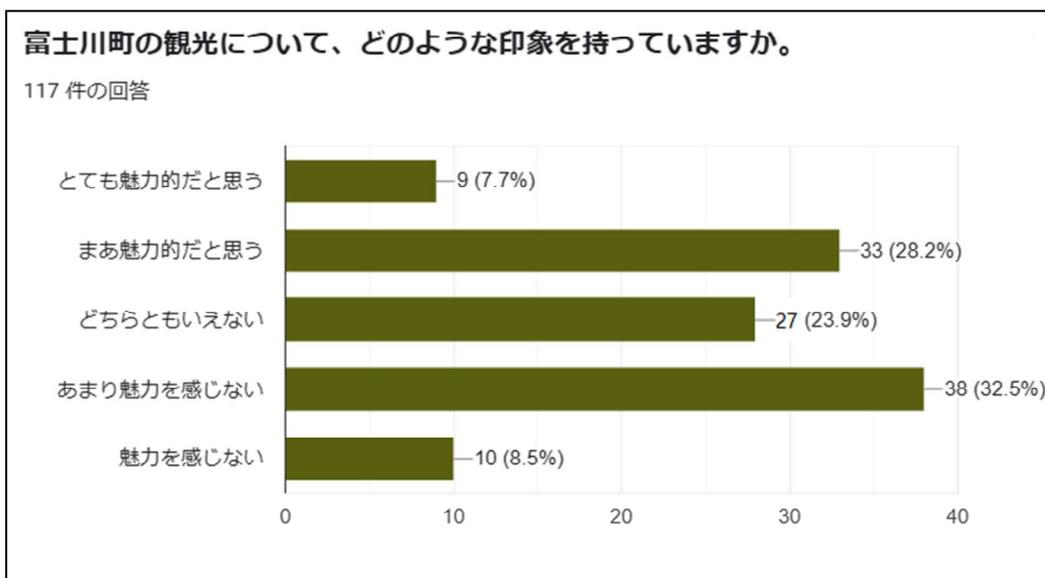
(3) 回答者の富士川町在住期間

富士川町の在住期間が 10 年以上の方が 91.5%と最も高く、本アンケートは町を詳しく知る住民の回答が多かったといえます。5 年未満在住の住民も 6.8%と、町の観光に興味をもっている様子が伺えます。



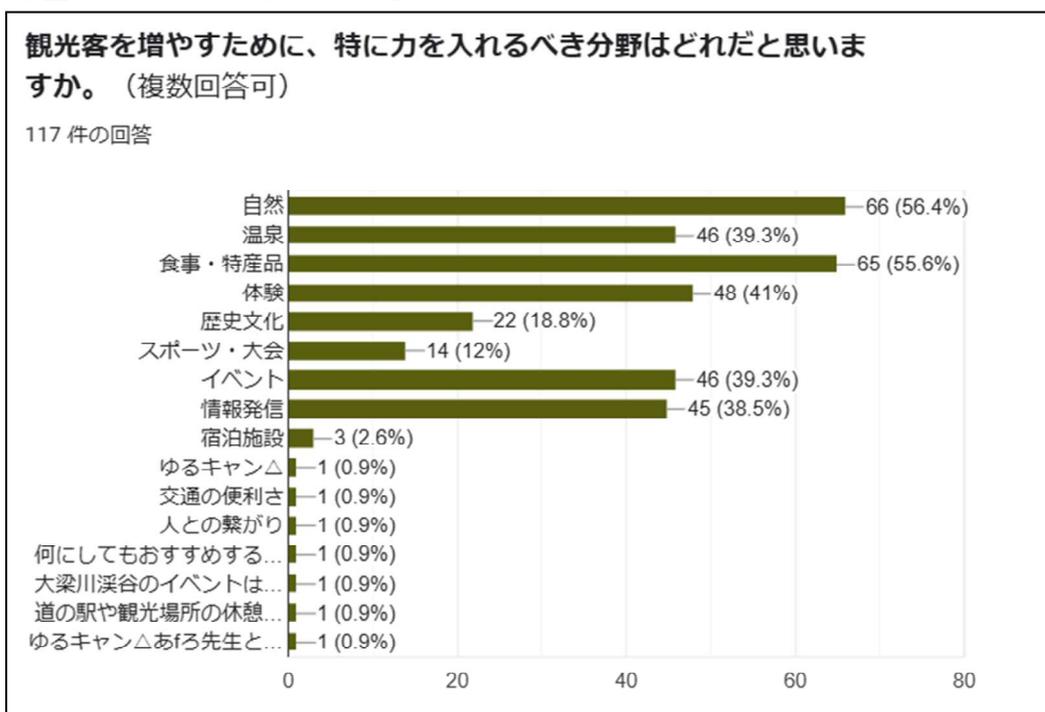
(4) 町の観光についての印象

町の観光については、あまり魅力を感じないとの意見が最も多く 32.5%でした。とても魅力的と考える方と魅力を感じないと考える方が同数程度とのことから、観光資源が身近にあるなど、地域による差も考えられます。



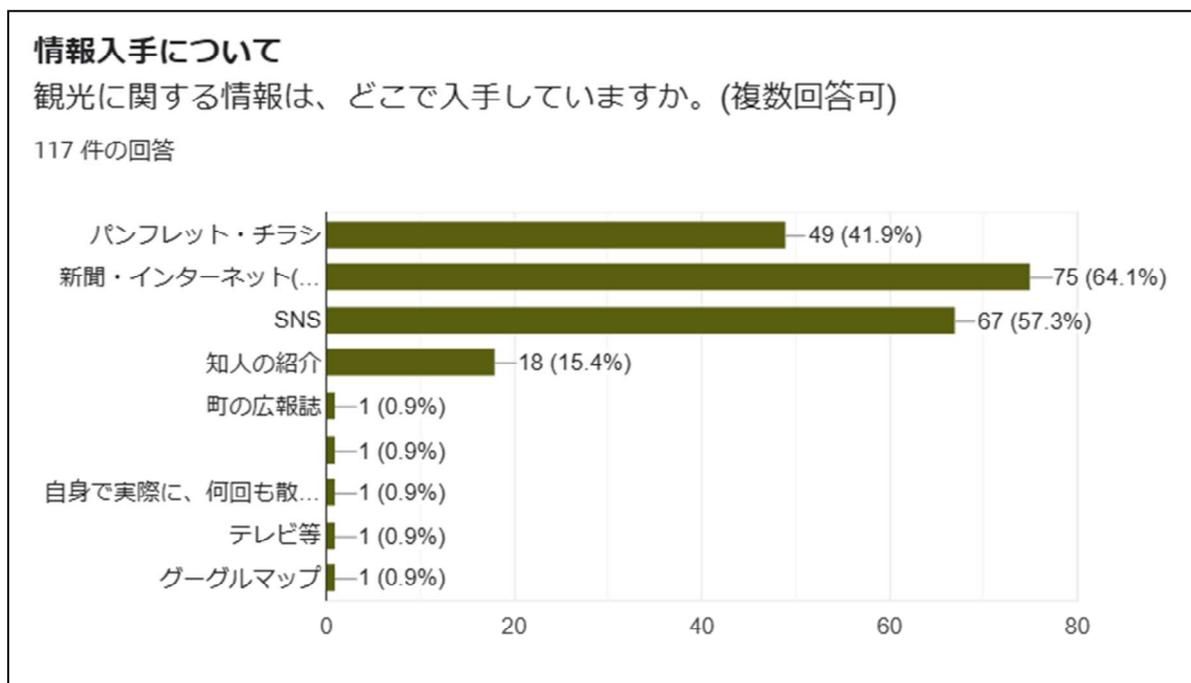
(5) 観光客を増やすために力を入れた方がいいと思う分野

観光客を増やすために力を入れたほうがいいと思う分野は、自然が 56.4%、食事・特産品が 55.6%と続いています。



(6) 観光のための情報入手先

観光のための情報入手先は新聞・インターネットが64.1%と最も多く、次いでSNSが57.3%となっており、現代の情報収集はインターネット経由で行われることが多いと伺えます。



(7) 町の観光やまちづくりに関するご意見・ご要望

68件のご意見がありました。観光のみならず、まちづくりに関する要望も多く、大別してまとめたものを掲載します。

① 観光の核・目玉づくり

行きたいと思わせる明確な目玉がない

子どもから高齢者まで楽しめ、滞在時間が伸びる施設が必要

季節限定でなく、一年中楽しめる観光拠点がほしい

② 施設整備・受入環境の充実

宿泊施設・ホテル、RVパークの不足

スポーツ施設、公園、遊具などの整備

トイレ整備（特に女性）、防犯対策

バスなど公共交通の充実

③ 情報発信・PRの強化

観光PRの弱さ、インパクト不足
SNS・動画を活用したタイムリーな情報発信
若い世代・女性を意識した言葉や感性
イベント前後の継続的な情報発信

④ 既存資源の活用（漫画やアニメ・歴史・自然）

アニメ等の聖地性を町全体で強く発信
富士川舟運、祭り、溪谷、富士山景観のPR
近隣市町村と連携した広域観光

⑤ 商業・特産品・賑わいづくり

柚子を活かしたスイーツ・食の商品開発
商店街の再生（レトロ化、若者のチャレンジショップ）
イベントや企業・有名人とのコラボによる集客

⑥ 観光だけに頼らないまちづくり

観光と産業・雇用・人口対策の両立
若い世代・移住者の発想を活かす体制づくり
一貫したビジョンを持った継続的な取り組み

町外からの来訪者向けアンケート調査結果(回答数7件)

(1) 回答者の年代

40代	4
60代	3

(2) 来訪回数

初めて	0
2~4回程度	0
5~9回程度	0
10回以上	7

(3) 同行者について(複数回答)

家族	5
友人	3
1人	5

(4) 今回の来訪目的

観光	5
通院	1
食事	1

(5) 行き先

櫛形山・まほらの湯	1
平林	1
かじかの湯	1
無回答	4

(6) 交通手段

自家用車	7
------	---

(7) 滞在期間

日帰り	7
宿泊	0

(8) 富士川町を知ったきっかけ(複数回答)

近隣市町村在住	4
以前住んでいた	1
パンフレットやチラシ	1
新聞・インターネット(検索)	1
知人の紹介	1
道の駅などで偶然	2
ゆるキャラ(SNSなど)	1

(9) 良かったと感じた点(複数回答)

自然	5
食事・特産品	3
アクセスのしやすさ	4
人のあたたかさ	2
温泉	2
天体写真	1

(10) 改善したほうが良いと感じる点

動物との共存	1
櫛形山まで行くのに迷う	1

(11) 今後あったら嬉しいサービスやイベント

ゆずにゃんグッズをもっと増やしてほしい。
ゆずを使った食育イベント
ガイド付き地域説明
星空イベント

(12) 「ふるさと納税」での富士川町の特産品などへの興味

すでに利用したことがある	2
ある	2
ない	3

(13) 町の観光やまちづくりに関するご意見・ご要望

あちこちに駐車場を増やしてほしい。
子育て世代・若い人が住みたいと思うようなPR もっとあっても良い。

IV. 地域別の観光動向

1. 地域別の特性と観光地づくりの課題

都市・田園地域

(1) 地域の特性

- 役場、学校、医療機関、商業施設などが集積されており、日常生活に必要な機能が比較的まとまっています。
- 県道 42 号線周辺に中心市街地が形成され、用途地域が指定されています。増穂 IC 周辺には、道の駅富士川や商業施設が立地しており、賑わいのあるエリアとなっています。
- 農地と住宅地が混在する土地利用がみられ、市街地周辺では農地の宅地化が進んでいます。一方、富士川低地部や市街地西側には、優良農地が分布し、地域の特徴ある農の景観が広がっています。
- 市街地の南西には大法師山があり、大法師公園は日本さくら名所百選に選ばれています。
- 国道 52 号、県道 42 号線が地域を南北に縦断し、中部横断自動車道増穂 IC が位置するなど広域交通のアクセスに恵まれています。
- 県道 42 号線沿道の青柳町・鰍沢の商店街は、古くからの歴史があり旧街道の面影を残す町並みです。

(2) 大切にしたい地域の主な資源

- 舟運の歴史や旧街道の面影を残す町並み、富士川等の潤いと広がりある水辺空間、地域各所に見られる桜の景観、丘陵地からの眺望、山麓の棚田や里山、多くの人で賑わう施設周辺等が、特徴的な地域資源となっています。

自然資源	富士川、戸川、利根川等の水辺空間／市街地後背の斜面緑地等
歴史・文化資源	青柳・鰍沢河岸等の富士川舟運の歴史／駿州往還等の旧街道のまちなみや歴史的建造物／遺跡・史跡や由緒ある社寺／山麓周辺の古道／民俗資料館(太鼓堂)／鰍沢山車等の伝統行事等／菴米公民館(有形文化財)
その他主な景観資源	舟運・旧街道の歴史・文化とまちなみ景観／富士川等の水辺景観／大法師公園・菴米の棚田等の山麓・丘陵地からの眺望景観／富士川扇状地の田園景観／菴米の棚田と里山景観／大法師公園等の

	桜と桜回廊／主要観光施設周辺の賑わい景観等
緑や公園、施設等の資源	大法師公園、殿原スポーツ公園、富士川いきいきスポーツ公園、富士川親水公園、富士川ふれあいスポーツ公園等の公園・緑地／大法師公園・利根川沿いの桜等の四季折々の花の風景／富士川サイクリングロード、水辺プラザや利根川沿いの緑道等の河川沿いの緑地空間／道の駅富士川、まほらの湯等の観光・レクリエーション施設等

(3) 地域の課題

- 舟運の歴史・文化を効果的に活かした景観形成や、市街地を取り囲む田園、丘陵地の緑、親水空間を活かした取り組みが求められています。
- 大法師公園は、春には多くの観光客が訪れる本町を代表する観光資源である一方、桜の老木化や施設の老朽化が課題となっています。あわせて、周辺に点在する桜の名所との連携が十分とは言えず、広域的な回遊性の向上に向けた取組が求められています。
- 県道 42 号線沿道の青柳町・鰻沢の商店街は、購買力の流出や空き店舗の増加により、賑わいの維持が課題となっています。

平林地域

(1) 地域の特性

- 豊かな森林に囲まれた里山を擁する中山間地の農村集落であり、地域内には、低地部から山腹にかけて形成された棚田が広がり、これらの棚田は、農林水産省の「つなぐ棚田遺産」に選定されるなど、歴史的・文化的価値を有する農の景観として高く評価されています。
- 背後に広がる楯形山は、原生林や多様な植物に加え、富士山や南アルプスを一望できる眺望が高く評価され、登山者をはじめとする来訪者から人気を集めています。
- 集落の周辺には、農地や沢が点在するとともに、山林や里山景観が広がっており、自然環境と調和した暮らしの形が地域の景観として今も残されています。
- 大根やトマトの産地であり、近年、中山間地の特徴を活かした体験交流型の観光や地域振興の取り組みが盛んとなっています。

(2) 大切にしたい地域の主な資源

- 楯形山の登山口として親しまれるとともに、棚田の景観や富士山の眺望、環境学習や体験交流など、多様な魅力を備えています。

自然資源	南アルプス巨摩県立自然公園と山々の森林資源／シンボリックな楯形山、丸山や大峠山/儀丹の滝、妙蓮の滝等の水辺空間／身近な里山など
歴史・文化資源等	氷室神社(大杉のご神木)、／平林の祇園祭、神楽等の伝統芸能／氷室跡、楯形山信仰等の歴史文化資源など
その他主な景観資源	眺望景観(楯形山、丸山林道、平林の棚田)／平林の棚田の景観、里山景観／氷室の郷ふれあいまつり等の祭事など
緑や公園、施設等の資源	登山道、トレイルラン・トレッキングコース／平林交流の里みさき耕舎、たはたの宿、増穂ふるさと自然塾等の体験・交流施設／赤石温泉等の観光施設 など

(3) 平林地域の課題

- 人口減少や高齢化が進行しており、集落の維持や地域活動の担い手不足が課題となっています。とりわけ、農地や棚田の保全、地域行事の継承など、これまで住民が担ってきた役割を将来にわたって維持していくことが難

しくなりつつあります。

- 集落が点在する中山間地域であることから、道路の幅員が狭い区間や急勾配が多く、日常生活や来訪者の移動の利便性に課題が生じています。また、公共交通の利便性が十分とは言えず、観光客にとってもアクセスしにくい点が課題です。
- 櫛形山では、鹿の増加に伴う食害が進行しており、原生林や高山植物など貴重な自然環境に影響を及ぼしており、適切な保全対策が求められています。
- 平林地区は、豊かな自然環境や棚田、櫛形山の登山資源などを有しているものの、町内外における認知度が十分とは言えず、観光資源としての魅力が十分に発信しきれないことが課題となっています。

穂積地域

(1) 地域の特性

- 小室・高下からなる穂積地域は畔沢川と小柳川の上流に沿う中山間地で山林や農地に囲まれた自然豊かな地域です。起伏に富んだ地形と里山景観が広がり、四季折々に変化する自然の表情を身近に感じることができる環境を有しています。地域内には農地や集落が点在し、農業を中心とした暮らしの風景が今も残されており、自然と調和した地域の営みが地域資源として受け継がれています。
- ゆずの産地として知られており、香りや品質に優れたゆずの生産が行われていることが大きな特徴であります。ゆずは、地域の食文化を支えるとともに、加工品の開発やイベント等を通じて特産品として活用されており、観光客に地域の魅力を発信する観光資源としても生かされています。
- 冬至から元旦にかけて富士山山頂に太陽が重なる「ダイヤモンド富士」を望むことができ、この希少な自然現象を目当てに、毎年多くのカメラマンや観光客が訪れています。こうした景観的魅力から、本地域は「日出づる里」とも称されており、景観資源として観光振興への活用が図られています。
- 妙法寺のあじさいも有名であり、初夏には境内一帯が色とりどりのあじさいに彩られます。これにあわせて、毎年「あじさい祭り」が開催され、多くの来訪者が訪れるなど、地域を代表する観光資源となっています。

(2) 大切にしたい地域の主な資源

- 香り高いゆずの生産地としての特性や、冬至から元旦にかけて見られる「ダイヤモンド富士」、また妙法寺のあじさいなど、自然景観や文化資源が豊富です。

自然資源	南アルプス巨摩県立自然公園と山々の森林資源／八町山や立石山／畔沢川、小柳川等の河川等の水辺空間／身近な里山、七面堂の森、八雲池など
歴史・文化資源等	妙法寺、懸腰寺、天狗社、七面堂等の歴史文化資源など
その他主な景観資源	眺望景観(八雲池周辺、高下のダイヤモンド富士)／穂積の棚田の景観、里山景観／妙法寺あじさい祭り、ゆずの里まつり等の祭事など

緑や公園、 施設等の資源	八雲池公園や河川・溪谷沿いの緑地空間／妙法寺のあじさい、矢川の長寿桜等の四季折々の花の風景／登山道、トレイルラン・トレッキングコース など
-----------------	-----------------------------------------------------------------------

(3) 穂積地域の課題

- 人口減少や高齢化の進行により、観光や地域活動を担う人材の確保が課題となっています。今後は、地域住民に加え、外部人材や関係人口の関与を促しながら、持続的な観光振興につなげていく必要があります。
- 穂積地域の魅力は、特定の時期や分野では知られているものの、通年での情報発信や広域的な周知が十分とは言えません。SNS や観光媒体等を活用した効果的な情報発信により、地域の認知度向上を図ることが重要となります。
- 県道高下鯉沢線が市街地から地域を東西に結ぶ骨格道路となっており、林道と併せ観光道路となっていますが、中山間地に位置していることから、道路幅員が限られている区間やカーブの多い路線が見られ、観光シーズンやイベント時には、自家用車での来訪が集中しやすく、安全性や円滑な移動の確保が求められています。
- 森林の手入れ不足等により荒廃が進行しつつあり、地域が有する美しい景観が損なわれることが懸念されています。このため、景観の保全や地域資源としての価値を維持する観点から、森林環境の適切な管理が課題となっています。

中部・五開地域

(1) 地域の特性

- 富士川や大柳川等の河川、奥深い渓谷、西側の県立南アルプス巨摩自然公園の豊かな自然環境に恵まれ、森林や清流が地域の特徴を作り上げており、四季折々の風景を楽しむことができます。富士川沿いの低地にまとまった田園、山間地では樹園や田園、キノコ栽培が見られます。
- 山間部の大柳川渓谷は、清らかな流れと深い渓谷美が広がる、富士川町を代表する自然景勝地の一つです。渓谷沿いには新緑や紅葉など四季折々の自然が息づき、季節ごとに異なる表情を楽しむことができます。渓谷内には数多くの吊り橋や滝が点在しており、渓谷美とあわせて変化に富んだ景観を体感できることも大きな魅力です。周辺には、地域の郷土料理である「みみ」を作ったり食べたりできる体験施設「つくたべかん」を始め、温泉施設や民泊施設などが立地しており、豊かな自然に囲まれた落ち着いた環境の中で、ゆったりとした滞在型の観光を楽しむことができます。
- 国道52号沿いにある歴史文化館「塩の華」は、富士川町の歴史や文化を伝える拠点施設であり、富士川舟運の歴史や町にゆかりのある人物に関する資料が展示されており、地域の歴史や文化に触れられる施設として、観光客はもちろん、学習や交流の場としても親しまれています。

(2) 大切にしたい地域の主な資源

- 森林と河川の豊かな自然に囲まれ、地形の特徴からそれぞれ趣の異なる地域資源を擁しています。

自然資源	南アルプス巨摩県立自然公園と山々の森林資源／シンボリックな源氏山・御殿山・清水山／富士川、大柳川等の河川、大柳川渓谷、不動滝、観音滝、沢等の水辺空間／身近な里山など
歴史・文化資源等	柳川寺、円応寺、妙現寺等の社寺／富士川舟運や渡船場跡など身近な歴史文化資源／十谷三番叟等の伝統芸能／みみ等の伝承料理など
その他主な景観資源	眺望景観(源氏山登山道、十谷峠、御殿山等)／駿州往還、古道／柳川寺のシダレザクラ、柳川のイヌガヤの群生／鳥屋・柳川等の棚田、里山景観／十谷の石畳と石垣の集落景観、江戸期の商家、古い民家や蔵／五開郵便局、鬼島の硯の里(雨畑硯)、鹿島の花の名所、もみじの里など

緑や公園、施設等の資源	大柳川やすらぎ水辺公園、不動滝親水公園、大柳川溪流公園、河川や溪谷沿いの緑地空間／登山道、トレイルラン・トレッキングコース、竜門橋、竜仙橋等の吊り橋、大柳川遊歩道／塩の華、つくたべかん、かじかの湯、秘湯十谷温泉等の観光・レクリエーション施設など
-------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(3) 地域の課題

- 地域では、人口減少や高齢化が進行する中で、農業や観光資源の維持管理などにおいて担い手不足が課題となっているほか、空き家の増加も地域環境の維持に影響を及ぼしています。今後は、外部人材の活用や交流人口の拡大を図りながら、地域資源を生かした持続可能な地域づくりを進めていくことが求められます。
- 大柳川溪谷や温泉、体験施設など魅力ある観光資源を有している一方で、案内表示や情報発信、休憩施設などの受入環境が十分とは言えず、滞在時間の延長や回遊性の向上につながりにくい状況となっています。
- 豊かな自然や観光資源を有しているものの、その魅力が十分に発信されておらず、町内外における認知度が必ずしも高い状況とはいえません。このため、来訪者の拡大につながりにくいことが課題となっており、今後は効果的な情報発信や周知の強化が求められています。
- 急峻な山間地が多く、平坦地が限られていることから、農地や集落が点在する土地利用となっています。このため、道路や施設整備に制約が生じやすく、日常生活や観光利用の両面において利便性の確保が課題となっています。

2. 地域別の観光づくりの方向

都市・田園地域

(1) 歴史・文化と景観を生かしたまちづくり

舟運の歴史や旧街道の面影を残す町並みなど、地域が培ってきた歴史・文化資源を生かした観光振興を進めます。あわせて、市街地を取り囲む田園や丘陵地の緑、富士川の水辺空間など、地域固有の景観要素を一体的に保全・活用することで、歩いて楽しめる魅力あるまちづくりを推進します。

(2) 観光資源の連携による回遊性の向上

日本さくら名所百選に選ばれている大法師公園をはじめ、地域各所に点在する桜の名所や水辺空間、眺望ポイントなどを相互に結びつけ、広域的な回遊性の向上を図ります。季節ごとの自然景観やイベントと連動した観光動線の形成により、滞在型観光の促進を目指します。

(3) 中心市街地・商店街の活力再生

県道 42 号線沿道に広がる青柳町・鰻沢の商店街については、歴史ある町並みの魅力を生かしつつ、空き店舗の活用や交流機能の導入などにより、賑わいの再生を図ります。観光客と地域住民の双方が利用しやすい商業・交流空間の形成を進め、中心市街地の活力向上につなげます。

(4) 農の景観と都市機能が調和した土地利用の推進

市街地周辺においては、農地と住宅地が混在する地域特性を踏まえ、周囲の景観との調和に配慮しながら、農地との適切なバランスを保った土地利用を進めるとともに、優良農地の保全とその有効な活用を図ります。あわせて、富士川低地部や市街地西側に広がる田園景観や棚田、里山などを重要な地域資源として位置づけ、都市機能と農の景観が調和した良好な土地利用の形成を目指します。

(5) 広域交通拠点を生かした交流促進

国道 52 号、県道 42 号線、中部横断自動車道増穂 I C といった交通結節点の立地を生かし、道の駅富士川周辺を含めた交流拠点機能の強化を図ります。広域からの来訪者を市街地や周辺観光地へ円滑に誘導することで、交流人口の拡大と地域経済の活性化を目指します。

(6) 自然・緑と共生する持続可能な地域づくり

市街地周辺の丘陵地や大法師山などの自然環境については、景観・防災・レクリエーションの観点から適切な保全と活用を進めます。身近な自然と共生する暮らしの魅力を高めることで、住み続けたい、訪れたいと感じられる持続可能な地域づくりを推進します。

平林地域

(1) 棚田景観を核とした観光資源の磨き上げ

「つなぐ棚田遺産」に選定された棚田景観は、平林地域を象徴する重要な観光資源であることから、四季折々の景観の魅力を生かした情報発信や、散策・写真撮影などを楽しめる環境整備を進めます。また、棚田の保全活動と観光を結び付けることで、来訪者が地域の営みに触れられる体験型観光の展開を図ります。

(2) 櫛形山の自然資源を生かした滞在型観光の推進

原生林や多様な植物、富士山や南アルプスの眺望を有する櫛形山については、登山や自然観察を目的とした来訪者の受入環境を整備するとともに、周辺資源と連携した滞在型観光を推進します。あわせて、自然環境の保全と利用の両立を図りながら、櫛形山の魅力を将来にわたり持続的に活用していきます。

(3) 農と暮らしを体感できる体験交流型観光の充実

大根やトマトなどの農産物の産地である特性を生かし、農作業体験や収穫体験、食を通じた交流など、地域の暮らしを体感できる観光の充実を図ります。中山間地ならではの農の営みを観光資源として位置づけ、交流人口の拡大と地域活力の向上につなげます。

(4) アクセス性の向上と周遊しやすい環境づくり

中山間地域特有の道路条件や公共交通の課題を踏まえ、来訪者が安心して地域を訪れ、周遊できる環境づくりを進めます。あわせて、登山口や棚田、体験拠点などを結ぶ分かりやすい案内や情報提供を充実させ、観光客の利便性向上を図ります。

(5) 地域資源の認知度向上と効果的な情報発信

豊かな自然環境や棚田、櫛形山といった多様な観光資源を有していることを、町内外に分かりやすく発信するため、SNS や観光媒体等を活用した情報発信を強化します。あわせて、周辺地域や町全体の観光資源との連携により、平林地域の魅力を広域的に発信していきます。

(6) 人材確保と地域主体による持続可能な観光づくり

人口減少や高齢化による担い手不足に対応するため、外部人材や交流人口の受入れを進め、地域住民と来訪者が関わり合いながら観光を支える体制づくりを図ります。地域主体の取組を大切にしつつ、観光振興を進め、持続可能な地域づくりにつなげます。

穂積地域

(1) ゆずを核とした食と体験型観光の推進

穂積地域の特産である香り高いゆずを、地域の象徴的な観光資源として位置づけます。ゆずの収穫体験や加工体験、飲食・土産品開発などを通じて、訪れる人が「味わい、体験し、記憶に残る」観光の展開を図り、地域の魅力発信と付加価値向上につなげます。

(2) ダイヤモンド富士を活かした景観観光の充実

冬至から元旦にかけて見られるダイヤモンド富士を、穂積地域ならではの希少な景観資源として磨き上げます。撮影スポットの案内や観賞環境の整備、情報発信の強化により、季節限定の魅力を効果的に活用し、来訪動機の創出を図ります。

(3) 妙法寺あじさいを中心とした季節観光の発信

妙法寺のあじさいを、初夏を代表する観光コンテンツとして位置づけ、周辺の散策や地域資源と組み合わせた回遊性のある観光を促進します。季節ごとの自然の魅力を丁寧に発信することで、来訪時期の分散と滞在時間の延長を目指します。

(4) 里山・森林景観を活かした癒しの観光づくり

中山間地ならではの里山や森林景観を、穂積地域の基盤的な観光資源として捉えます。森林整備と連動しながら、散策や自然体験など、静かで落ち着いた環境を活かした観光を推進し、景観の保全と観光振興の両立を図ります。

(5) 安全で快適な来訪環境の確保

観光道路としての役割を担う県道や林道について、来訪者が安心して移動できる環境づくりを進めます。案内表示の工夫や交通情報の発信などにより、観光シーズンやイベント時における安全性と円滑な移動の確保に努めます。

(6) 人材・関係人口の関与による持続的な観光体制の構築

人口減少や高齢化が進む中、地域住民だけでなく、外部人材や関係人口の参画を促しながら観光を支える体制づくりを進めます。情報発信やイベント運営、体験プログラムなどを通じて、地域に関わる人を増やし、持続可能な観光振興につなげます。

中部・五開地域

(1) 自然景観を核とした滞在型観光の推進

大柳川溪谷をはじめとする清流や溪谷、森林景観を地域の核となる観光資源として位置づけ、四季折々の自然をゆったりと楽しめる滞在型観光を推進します。温泉施設や民泊、体験施設と連携し、日帰りにとどまらない滞在時間の延長を図ります。

(2) 体験・食を通じた地域らしさの発信

郷土料理「みみ」をはじめとした食文化や、調理体験・交流体験ができる施設を活用し、地域ならではの暮らしや文化に触れられる観光コンテンツの充実を図ります。自然体験と組み合わせることで、五感で楽しむ観光の魅力を高めます。

(3) 歴史文化資源を生かした周遊型観光の形成

歴史文化館「塩の華」を拠点に、富士川舟運の歴史や地域の文化資源を分かりやすく発信し、自然景観と歴史・文化を結びつけた周遊型観光の形成を図ります。学習・交流の場としての機能も生かし、幅広い世代の来訪を促進します。

(4) 受入環境の整備による観光満足度の向上

案内表示や情報提供、休憩スペースなどの観光受入環境の充実を図り、来訪者が安心して地域を巡れる環境づくりを進めます。自然環境への配慮を前提としつつ、回遊性や利便性の向上に取り組みます。

(5) 情報発信の強化による認知度向上

地域が有する自然・文化・体験の魅力を、SNSや観光媒体等を活用して効果的に発信し、町内外における認知度の向上を図ります。季節ごとの魅力や過ごし方を分かりやすく伝えることで、来訪のきっかけづくりにつなげます。

(6) 人材・交流を生かした持続可能な観光地域づくり

人口減少や担い手不足を踏まえ、地域住民に加え、外部人材や関係人口との連携を進め、観光を通じた持続可能な地域づくりを目指します。空き家の活用や地域活動との連動により、観光振興と地域の活力向上を両立させます。

V. 魅力ある観光地づくりに向けて

1. 魅力ある観光地づくりの課題

(1) 観光ルート・回遊性の創出

町内の点在する観光資源を単体で訴求するだけでは、来訪者の満足度向上や滞在時間の延長につながりにくい状況にあります。

このため、自然景観、体験施設、温泉、食、歴史文化施設などを有機的に結びつけ、地域内を周遊できる観光ルートを明確化するとともに、テーマ性や物語性を持った観光の組み立てが求められます。

(2) アクセス・受入環境の充実

国道 52 号、鯉沢口駅、市川大門駅、中部横断自動車道増穂 IC など、広域交通の結節点から各観光地への円滑なアクセス確保が重要です。

あわせて、山間部や自然観光地における道路環境の改善、登山道や遊歩道の適切な整備、駐車場や休憩施設の確保など、安全性と快適性の向上を図る必要があります。

(3) 分かりやすく効果的な情報発信

町内に点在する観光資源やイベント情報を個別に発信するだけでなく、相互に関連付けた情報発信を行うことで、相乗効果を高めることが求められます。

SNS や観光サイト等を活用し、来訪者が目的や関心に応じて選択しやすい情報提供を行うことで、利便性の向上と認知度の向上を図る必要があります。

(4) 観光資源の再評価と磨き上げ

自然景観や既存の観光施設に加え、地域に根付く歴史、文化、産業、暮らしの知恵などを改めて見つめ直し、観光資源としての価値を掘り起こすことが重要です。

それぞれの資源にストーリー性を持たせ、関係部署や地域と連携しながら、体験型・学習型の観光資源として育てていく取組が求められます。

(5) 地域づくりと一体となった観光振興

観光振興は、観光事業者のみを対象とした取組ではなく、農業、林業、商業、製造業など多様な分野と連携しながら進めることが重要です。

地域の暮らしや景観を大切にし、町民にとって暮らしやすい地域づくりを進めることが、結果として来訪者にとっても魅力的な観光地づくりにつながります。観光を地域づくり、人材育成、生きがいづくりの一環として捉え、多面的な視点から振興していく必要があります。

2. 魅力ある観光地づくりの方向

目指す姿

富士川町が目指す姿は、地域の特性を生かした魅力的な観光地づくりを進め、町内外の関係団体との連携を強化することにより、観光振興を推進し、地域経済の活性化を図ることです。観光ルートの充実、アクセス環境の整備、施設の適正管理など、来訪者にとって魅力的で快適な滞在ができる環境を整備し、町全体の魅力を発信していきます。さらに、町民や町内事業者の協力を得て、持続可能な観光振興を実現し、地域の誇りを育む町づくりを目指します。

推進施策の概要

(1) 観光周遊ルートの充実

- 町内の平林地域、穂積地域、中部・五開地域と都市・田園地域を結ぶ観光周遊ルートの強化を図ります。これらの地域には、それぞれ特色ある観光資源が豊富に存在しており、例えば、平林地域では農業体験や櫛形山のトレッキング、穂積地域ではゆず狩り、ダイヤモンド富士やあじさい鑑賞、中部・五開地域では大柳川溪谷散策や歴史学習を楽しみ、観光後は、地域の温泉施設で癒しのひとときを過ごしたり、中心市街地や道の駅富士川で地元の特産品を購入していただけるルートを提案します。
- 日本さくら名所百選に選ばれている大法師公園を中心に、桜の老木更新や施設の計画的な維持管理を進めるとともに、周辺に点在する桜の名所と連携した広域的な桜観光の展開を図ります。あわせて、周遊ルートの整備や情報発信の強化により、回遊性の向上を目指します。
- 道の駅富士川を観光拠点として、更に町内の他の観光地へと流入する仕組みを強化し、訪れる人々が町全体を回遊できるよう促進します。

(2) 観光資源の魅力向上

- 道の駅富士川の機能を充実させ、町の観光拠点として更なる強化を目指します。また、富士川沿いの施設と併せて快適な水辺空間の創出を図ります。
- 温泉施設の魅力を一層引き出し、訪れる皆さまに癒しの空間を提供できるよう、さらなる集客を目指した取り組みを強化します。
- トレッキングコースの適正な維持管理とアクセス性の向上を図り、大柳川溪谷や櫛形山の魅力を引き出します。古道の整備や新たな観光資源の発

掘を進め、地域の山岳観光地としての魅力を高めます。

- 大柳川溪谷や楡形山などの観光地に、わかりやすい案内板や誘導サインを設置するとともに、駐車場やトイレなどの整備に努めます。
- ダイヤモンド富士等の良好な眺望スポットの整備、眺望マップの作成など、眺望スポットを活用した集客に努めます。
- 増穂ふるさと自然塾の施設整備や体験メニューの充実を図り、自然環境を学びながら楽しめる観光を推進します。
- 巻米・平林・穂積の棚田景観の眺望スポットづくりや棚田米のPRなど 棚田を活用した観光振興に努めます。
- 中山間地の特色ある集落景観の維持や里山、温泉等の有効活用を図ります。

(3) アクセス・受入環境の充実

- 観光地へのアクセスを改善し、広域交通の結節点(国道52号、鰍沢口駅、市川大門駅、中部横断自動車道増穂IC)から各観光地への円滑な移動を可能にするよう努めます。
- 道路、駐車場、トイレ等の整備を進め、安全性や快適性を向上させ、来訪者が安心して楽しめる環境を整備します。
- 観光施設に多言語表示を設置するなど、外国人観光客への案内を充実させます。

(4) イベントの充実

- 大法師さくら祭り、甲州富士川まつりの充実とPRの強化を図り、町の魅力を広くPRします。また、新たなイベントの開催や形態を模索していきます。
- あじさい祭り、ゆずの里まつりなど地域の祭りや行事において、地域と連携して出店、周知等を行い、観光客の集客を図ります。

(5) 広報活動の強化

- 道の駅富士川や町内主要観光施設を活用した積極的なPRを展開します。
- 観光パンフレットを充実させ、町の魅力を広く伝えていきます。
- ホームページやSNSを積極的に活用し、町のPR強化に努めます。
- ふるさと納税を活用して地域の魅力をPRし、観光資源への関心を高める取り組みを進めます。
- JR東海やNEXCO中日本など町の観光につながる交通関係機関と連携したPRに努めます。

- 新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、インターネットなど多様なメディアを通じて、町の観光資源や地域の特色を効果的にPRし、町の認知度向上と魅力発信を強化していきます。
- フィルムコミッションを活用し、映画、ドラマ、CMなどの撮影場所として誘致を図り、来訪者の増加を図ります。
- 観光パンフレットやホームページの多言語表示により、外国人観光客へのPRを強化します。

(6) 観光施設の適正な整備

- 施設の劣化が進むと、観光客が快適に利用することが難しくなるため、定期的な点検と修繕作業を行い、施設の機能や安全性を確保します。また、老朽化に伴う設備の更新や改修を行うことで、快適で魅力的な施設として再生し、長期的な利用価値を高めます。
- 利用が少なく、観光振興への貢献が限られている施設については、その運営方法を見直し、限られた予算の中でより効果的な運営ができるよう、資源の最適化を図っていきます。

(7) 関係団体との連携

- 町の観光振興において、観光DMOである(株)ふじかわまちづくり公社の役割は非常に重要であるため、緊密に連携し持続可能な観光地域づくりを進めていきます。
- 商工会、観光物産協会、農村RMO、(株)富士川など町内の関係団体と緊密に連携し、それぞれが持つ知識や資源を互いに活用し、全体で一体となって観光振興に取り組むことで、地域の魅力を最大限に引き出し、観光客の誘致や地域経済の活性化を目指します。
- 富士川地域観光振興協議会や県央ネットやまなしをはじめとした広域的な連携を深め、地域間での情報共有や共同イベント、プロモーション活動を通じて、観光資源を効果的に活用し、地域全体の観光振興をさらに推進していきます。
- 町外の関係団体と連携し、相互の交流を深めることで、両地域の観光資源を相乗的に活用し、両地域の魅力を引き出し、観光客の誘致を促進します。
- スポーツや文化など多面的な要素を観光と結び付けた振興を図るため、関係団体と連携し、イベントや合宿、体験型プログラムの展開などを通じて、交流人口の拡大と地域の賑わい創出を図ります。

VI. 数値目標

施策の達成度を測るための指標	実績値 R6 年度 (2024)	中間値 R12 年度 (2030)	目標値 R17 年度 (2035)
観光入込客数 ※1	671,706 人	738,000 人	812,000 人
町民満足度 ※2	35.8%	50.0%	65.0%

※1 観光入込客数

山梨県観光入込客統計調査

市町村別観光入込客(延べ人数)

※2 町民満足度

令和7年度実施町民向けアンケート調査

質問「町の観光について、どのような印象を持っていますか」に対して、「とても魅力的だと思う」・「まあ魅力的だと思う」と回答した人の割合

Ⅶ. 計画の推進にあたって

本計画の推進にあたり、富士川町の観光振興をより一層強化するためには、行政、事業者、地域、そして町民が一体となって協力し、地域資源を最大限に活用することが不可欠です。

行政は、計画の実行に向けて、施策の効果的な実施に努めます。また、観光資源の整備や情報発信、観光客の誘致に向けた取り組みを進めていきます。

事業者には、地域の魅力を最大限に引き出す商品やサービスの提供に取り組んでいただき、観光産業の発展に向けた新たな事業展開を期待しています。観光業を支える事業者としての役割は非常に大きく、地域の発展にとって欠かせない存在です。

地域住民は、観光資源の提供や観光客との交流を通じて、地域の魅力を広めていく重要な担い手です。町民一人ひとりが誇りを持って地域の魅力を伝え、観光振興に積極的に参加することが、町の発展に繋がります。

町の観光振興施策は、全ての関係者が共通の目的に向かって連携し、協力することで初めて効果的に進められます。この計画を基盤として、富士川町の魅力を広く発信し、多くの人々に訪れていただける町づくりを進めてまいります。